

未来に伝えたい

白い森おぐぐの

文化遺産

その19 滝の不動堂

前回紹介した白子神社（白子沢）から東方100mほど離れたところに清安寺というお寺があります。ここは現在白子沢の公民館にもなっており、地域のかたがたが日常管理をおこなっています。

そのお堂の一角に、町指定文化財である木造の不動明王像が安置されています。大日如来の化身であり、煩惱（ぼんのう）を抱えた人たちを力づくで仏の道にみちびき、救済するとされている不動明王。一般的にその尊像は恐ろしく、険しい形相を



▲清安寺の不動明王像

しています。清安寺の不動明王像も高さ3mほどの大きな火焰（かえん）の光背（こうはい）をまとい、怒りで結んだ唇の間から牙をみせています。

この不動明王像は元々、滝集落にあった不動堂（お不動様）で祀られていたものです。集落が昭和45（1970）年、集団移転し閉村となるのにあたり、住民たちが清安寺の住職らと相談し、本像を寄託することとしたのです。そしてその年の11月、住民たちの手によって滝から白子沢へ運ばれたのでした。

『小国の信仰』（小国町誌編集委員会編、1994年）によると、かつてこの不動明王像を祀っていた不動堂は閉村時に沼沢の山の神社へと寄進され、滝にはありません。ただし、石段や灯籠、礎石な

どは残っており、そこにお堂があったことを伝えています。

雄大な飯豊山地の谷あいひらかれていた滝集落。その奥深い山々で修行を積む修験道が盛んであった中世には、滝に不動院という寺院があり、修験者たちの先達（峰入の案内者）を務めていたようです。『小国の文化財』（小国町誌編集委員会編、1999年）によると、その開創は平安時代後期の永保元（1081）年と言われています。不動堂はその附属堂であり、修験道において信仰される本尊の一つ、不動明王をそこに祀ったのです。

ところが、この不動院は中世末から近世初頭の頃、飯豊山神社の別当（神社の管理経営をおこなう寺のこと）をめぐるつ会津蓮華寺（福島県会津若松市にあった寺で、現在廃寺）と争い、焼き討ちに遭ってしまいました。それ以降、不動院は復興されず廃寺となりましたが、不動堂だけは宝暦2（1752）年に再興され、地域で大切に守り継がれてきたのです。滝集落の



▲滝の不動堂跡

歴史や暮らしについてまとめた『ある山里の歴史 滝部落集団離村の記』（1991年）のなかで、著者であり滝出身者である福盛吉之助氏は、この不動堂について「実にここが村の信仰の中心であり村民の心のよりどころであった」と述べています。大きな杉に囲まれひっそりと残る不動堂跡。それは、滝集落に息づいていた人びとの信仰の一端を今に伝えるとともに、はるか昔に隆盛をみた飯豊山修験のかすかな足跡を物語る、本町では数少ない文化遺産でもあるのです。

（教育委員会生涯学習室）

自動車関係功労者国土大臣表彰

小国自動車整備工場阿部秀勝氏が受賞

多年に渡る自動車整備事業の振興と発展に尽力したとして、小国自動車整備工場株式会社の阿部秀勝代表取締役社長が自動車関係功労者国土大臣表彰を受賞されました。



県社会教育連絡協議会表彰・置賜社会教育振興会表彰

町内から2人が受賞

永年の社会教育や生涯学習の振興に尽力したかたに贈られる県社会教育連絡協議会表彰を小国町公民館運営審議会委員を7年間務められた塚原明広さん（舟渡）が受賞されました。また、平成27年から社会教育委員を務められている遠藤佐知子さん（栄町）は置賜社会教育振興会表彰を受賞されました。



消防辞令交付式・秋季火災予防パレード

冬に向け火の取扱いの注意喚起

消防団へ新たに入団されたかたの辞令交付式が11月6日に小国分署で行われ、その後、火災予防啓発のため消防関係車両12台が町内をパレードしました。

冬季は暖房器具なども使用しますので火災予防に努めましょう。



税についての作文

小国中学校から2人が受賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が主催する「税についての作文」で小国中学校の大久保里恋さん（1年）が山形県納税推進協議会長賞、佐藤天さん（1年）が小国町長賞を受賞しました。

大久保さんは8月3日の豪雨災害の復旧に税金が使われていることを題材に選び、復興への願いを作文に込めています。



広告

since1969

除雪機のある幸せ

合資会社 山佐 佐藤農機店

コスモ石油 小国給油所 東北運輸局認証工場

〒999-1511 山形県西置賜郡小国町大字玉川361-3

TEL.0238-64-2320 FAX.0238-64-2322

クボタ農業機械 除雪機 汎用パワーツール販売・整備

